

生物多様性いちかわ懇談会

第1回：2024/11/16, 第2回：2024/11/30, 第3回：2025/01/19

出席者：市民19名（20代～80代）、総合環境課

第1回, 第2回では、公募により集まった市民19名が北東部・北西部・中部・南部に分かれ、各エリアの「生物多様性の現状」や「担い手」・「外来生物問題」の解決に向けた取り組みについて、意見交換を実施しました。第3回では、それらの意見をもとに、各エリアのリーダー・サブリーダーが、市域全体の目指すべき将来像や取り組みの在り方について、以下のように取りまとめを行いました。

〈懇談会が考える市川市が目指すべき将来像〉

2050年に市川市で実現すべき生物多様性の将来像を次のように提案します。

『多様でたくさんの「土・水・緑といきもの」が繋がった街』

『その価値を理解して、市民と自然が共生している街』

各エリアからの意見は、次のようにまとめられると考えました。

「市川市にある自然（土・水・緑といきもの）がこれ以上減少してほしくない」「自然の量だけでなく、中身や質も重要である」「多様な自然同士のつながり（コリドーやエコトーン）を確保していきたい」という“環境”に対する思い。

それに、「市民が生物多様性について理解し、自然を楽しむことで創り上げていきたい」「市民と市民、市民と行政がともに話し合い、地域戦略の思いを受け継いでいきたい」という“人”に対する思い。

よって、2050年に実現すべき将来像として、『多様でたくさんの「土・水・緑といきもの」が繋がった街』『その価値を理解して、市民と自然が共生している街』としました。

〈懇談会が考える自然との関わりのあり方〉

第1回, 第2回の懇談会では、「子ども達が自然に興味を示すための取り組み」や「大人が保全・再生に参加するための取り組み」の2点について検討してきました。

第3回の取りまとめでは、“子ども”と“大人”について、密接につながったものと判断し、次のようなフレーズにまとめました。

『学校教育や地域での交流を通じて、“子ども”も“大人”もつながって、学び・楽しみ・話し合える場を維持・拡大していくことが望まれる』

これまで、市川市で行われてきた、学校における虫採りや米づくり、親子での観察会や体験会、農業ボランティア等の取り組みを、今後も継続し、さらに幅広い人・場所・取り組

みに拡大することが重要であると考え、『学校教育や地域での交流を通じて、“子ども”も“大人”もつながり、学び・楽しみ・話し合える場を維持・拡大していくことが望まれる』としました。

なお、時間の関係で外来生物問題についてまとめることができませんでしたが、第2回懇談会では外来生物について、増やさない・広げない、正しい情報の周知、新たな外来生物については正確な情報を早期に収集し防除する仕組みを整備すること、在来生物や生態系を守る取り組みを行うこと、などが大切であるという意見が出されていたことを報告します。

北西部 リーダー